

平成23年4月3日

スピードが命

まづ東日本大震災で亡くなされた方々のご冥福と被災地の一日も早い復興を深く祈念申し上げます。私がこれかき書くことは私の考え方であり、また必ずしも全ての人に賛同して頂けるとは思っていません。ご容赦下さい。

3月11日の大地震後の行動についてです。大リーグのイチロー選手が1億円、ダルビッシュ投手が5,000万円、ユニクロの柳井社長が10億円と震災のニュースの間にテレビで義援金の額が放送されていました。飲食店での一般の人達の会話でもダルビッシュは離婚したけど男をあげた等の賞賛の声多数です。あとのスポーツ選手や経済人はそれ程記憶に残っていません。あとはプロゴルファーの石川選手が他の人達と違う形で巨額(?)の義援金を出しているのが注目を集めました。すなわち、早く決断し、行動に移した人が世の注目を集め評価を受けているわけですね。様子を見て世間並みの義援金を出した有名人はその世に出て当然かと世間かき思われているわけですね。スピードが命という言葉は仕事でよく使われるのですが、今回の大震災でも当てはまったのではないのでしょうか。古田土会計では3月14日私が決断し、社員に説明し、500万円を3月16日に日本赤十字に振込みました。社員にも義援金を募り、98万円集まりました。一番出した人は22万5千円でした。お客様の行動も早かったです。箱崎の嶋社長は3月21日かき現地に入り救援活動されたそうです。またセキネエンタープライズの肉根社長、正建プランニングの鈴木社長と共に救援物資を募り、運送業者のセキネエンタープライズ様が物資を運ばれました。私達は燃費料代を出さして頂くことにしました。ウインダーの高嶋社長より救援物資の要請がありました。全社員に声をかけると翌日には大きな段ボール箱2つ程のタオルとカイロ等、またお客様にもお願いをしてガスコンロ、ガスボンベ、ロウソクを譲って頂きました。ニ川屋商店様、鉦子燃費様、東洋工業様より多く品物を提供して頂きました。しかし、お金は受け取っていません。好意に甘んじました。ありがとうございます。事務所かきには、ハンデミックに備えて備蓄しておいたほぼ100万円分のマスクとパニアキモト様のパンの缶詰を提供しました。とにかく若い経営者達の決断と行動の早さには感心しました。スピード感があります。そして仙台支店の社員は全員無事でしたが、食料不足とガスボンベ等不足と聞いたので、パンの缶詰150缶、ガスボンベ等を送りました。回りの人達にも1人でも多くの人が酒を飲むように古田事務が指示していました。特にパンの缶詰は本当においしく助かたと報告を受けました。その他にもうすのお客様や中小企業経営者、社員の方々がいても立ちもいじれず現地でボランティア活動をしておられます。本当に行動力がある正義感が強く尊敬できる人々がいっぱいいます。感動と感謝です。私達はもっともっと働き経済を少しでも活性化させ、1円でも多くの義援金を出すべきであると思います。困っている人達のために何かをしたいと思うのは人情です。経営者が中心となって救援活動している姿は社員に伝わり、尊敬され、会社の団結力を高め、社員のモチベーションも高めます。今動くべきです。スピードが大事です。国民が一斉団結して、復興して日本人のすばらしさを世界の人々にアピールしようではありませんか。

古田土 満